

### 4-3 車から人へ、人が主役の「ヒューマンタッチ」なまちづくり

久屋大通の再生を進めていくうえで、従来からの車重視の考え方から脱却し、歩行者重視すなわち『車から人へ、人が主役の「ヒューマンタッチ」なまちづくり』の実現に向けた機能再生が必要です。

そこで、断面的に考えた久屋大通の空間利用の可能性、公園と沿道の一体的な活用や公園区域の拡大イメージについて、以下に整理します。

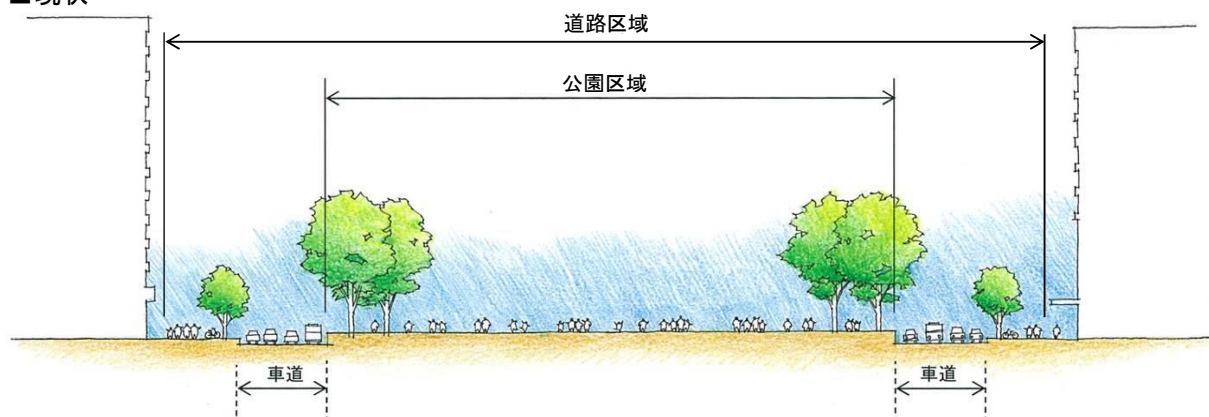
#### (現状)

- ・公園はありますが利用されていません
- ・公園と道路それぞれの管理者がおり、一体的な活用がされていません

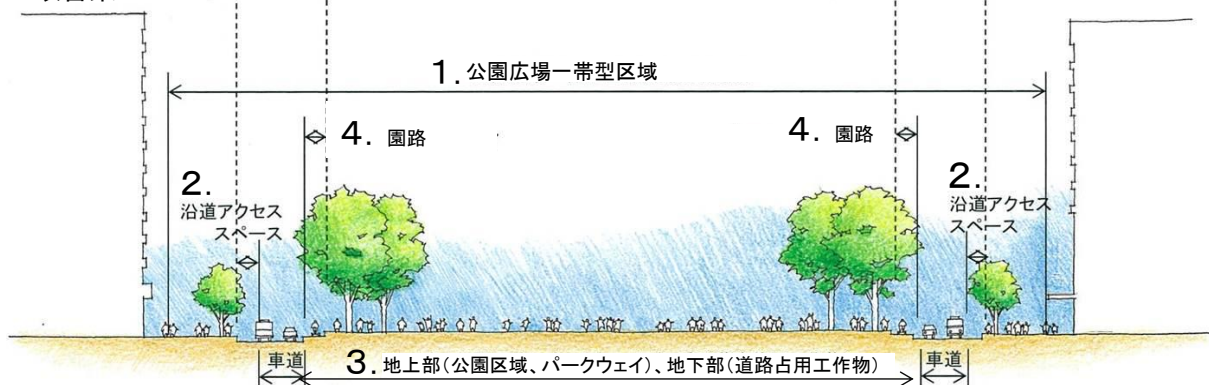
#### (改善案)

- ・公園広場一体型区域として、公園管理者が活用などについて一体的に考えます
- ・沿道アクセススペースは、公園と一体化できるバッファーとして活用します
- ・車道を狭めることで、公園の園路幅を広げながら公園の通過性、集積性の機能を高め、公園のパークウェイとして活用します

#### ■現状



#### ■改善案



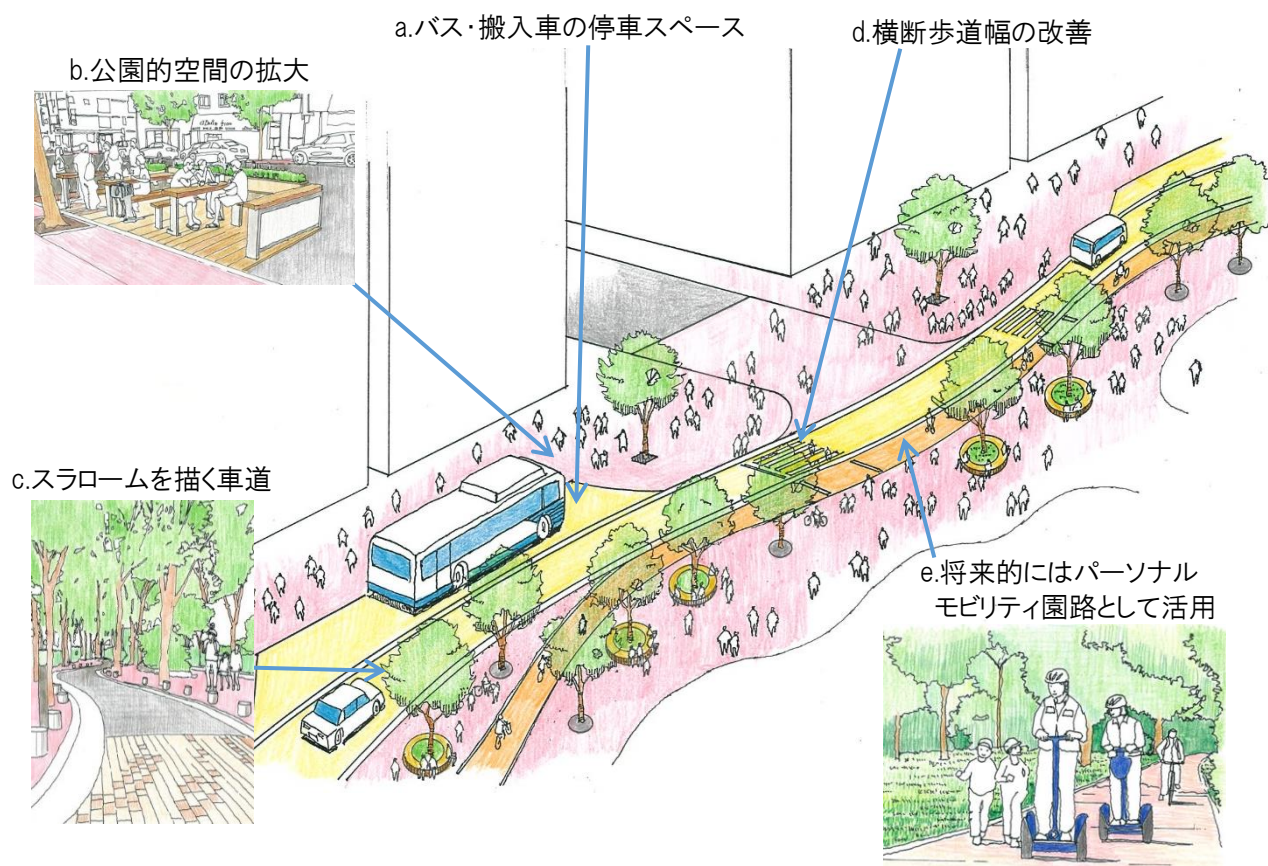
## ○空間活用の一体化

### ・沿道と公園の一体化

必要な自動車通行帯と十分な駐車帯を確保し全体を公園的な空間に整備します。

- a.バス・搬入車の停車スペース
- b.公園的空間の拡大
- c.スラロームを描く車道
- d.横断歩道幅の改善
- e.将来的にはパーソナルモビリティ園路として活用

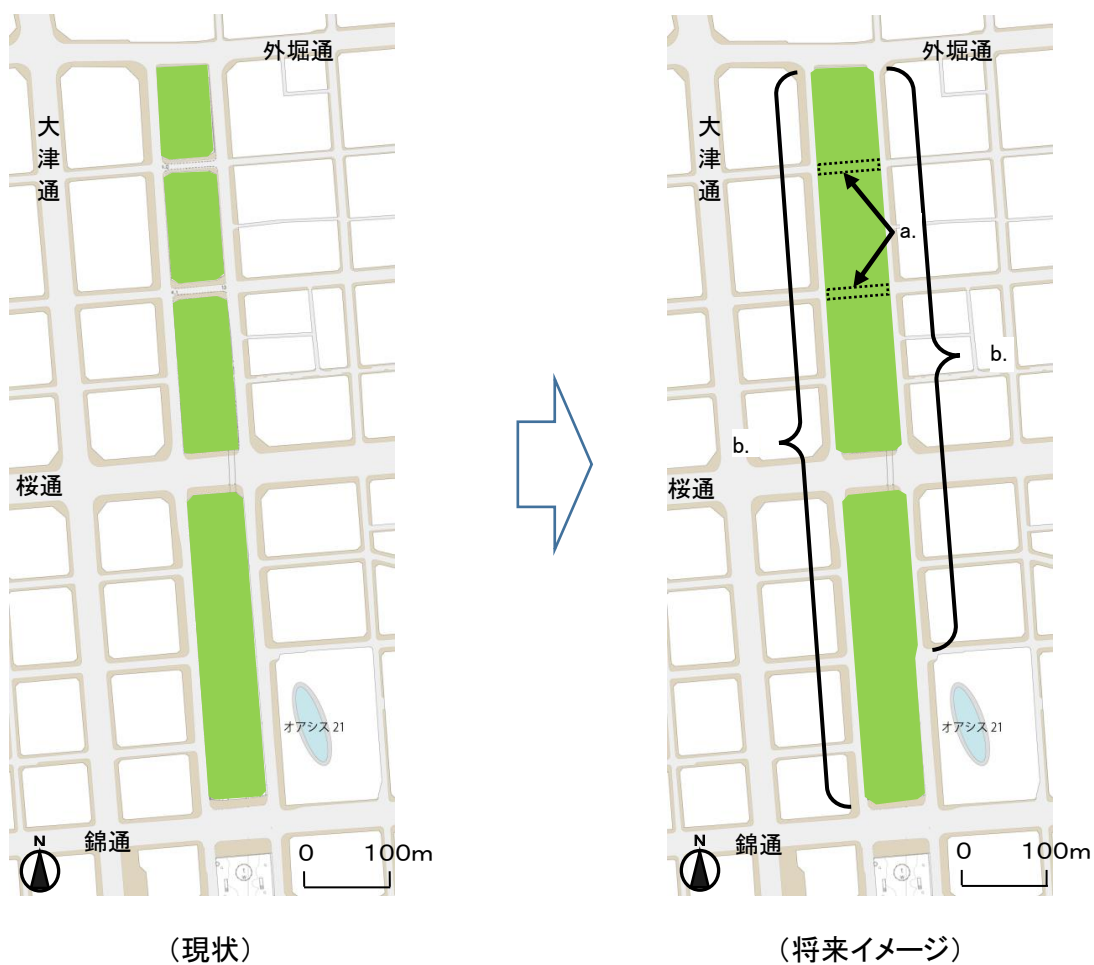
### ・公園と沿道（業務や商業）の緑の資産の共有化



北エリア・テレビ塔エリアにおける沿道と公園の一体化や東西道路の公園化イメージ

・公園区域の拡大

- a. 自動車交通への影響が最小限となる対策や公園化に向けた進め方等を検討し、市民・地域の理解を得ながら2箇所東西方向の道路を公園として整備し、一体感のある公園に再生します
  - b. 荷捌きの問題、歩道の使い方、自転車の問題、周辺道路交通への影響などを総合的に考慮し、市民・地域の理解を得られる道路形態等を検討し、公園を拡大します
- 沿道の利便性を確保するため、搬入車等の停車スペースを確保します



北エリア・テレビ塔エリアにおける公園区域の拡大イメージ

#### 4-4 民間活力導入に向けた新たな仕組みづくり

久屋大通の再生にあたっては、「つくる」ことはもちろん「つかう」ということと、マネジメントという視点が非常に重要です。

そのためには、民間事業者からの提案に加え、公園を中核とした民間事業者と地域の地元団体との連携によるエリアマネジメントの仕組みを構築し、導入を進めていくことが必要です。

##### ○民間活力の導入

- ・必要な規制緩和を行うとともに、公園の上質な整備や高質な管理運営のため、民間事業者のノウハウを活用します



例：民間事業者による集客施設の設置

(企業ミュージアム)



(カフェ)

## ○エリアマネジメントの導入

- ・グローバル化の中で都市が競争してきた1980年代～2000年代までは、グローバル企業に好まれるオフィス空間づくりが主流でしたが、都市空間が均質化されてしまいました
- ・近年は、地域の独自性を生かしたまちづくりが盛んになり、単なる「空間：Space」から意味のある「場：Place」に移行し、プレイスメイキングやプレイスマネジメントが台頭してきています
- ・作った後の「育てる」段階にはまちの中での様々な連携が必要であり、制度や前例の壁を越えて、新しい取り組みを始めるローカルな仕組みづくりが必要です
- ・「場：Place」で活動を構想し、それを展開する人を発掘するとともに、必要な財源を調達できるマネジメントの仕組みが必要です



民間事業者との連携イメージ  
(オープンカフェ)



地元まちづくり団体との連携イメージ  
(大道芸)

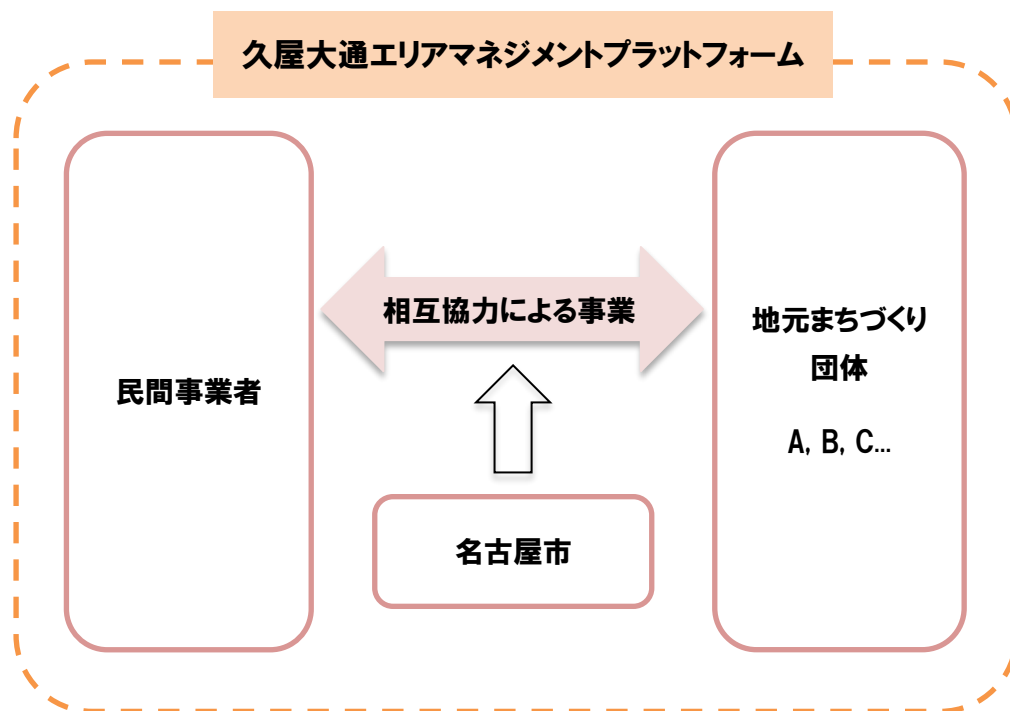
---

## ○久屋大通エリアマネジメントの基本的な考え方

- ・久屋大通公園の民間事業者と周辺の地権者、事業者、まちづくり団体が一つのプラットフォームを形成し、エリアマネジメントの取り組みを進めます
  - a.民間事業者は沿道の魅力化にも協力します
  - b.まちづくり団体それぞれの独自性は保ちながらも、久屋大通地区全体としてのまちづくりに共に取り組みます
    - ⇒プラットフォーム参加の団体それぞれの尊重、コーディネーターの中立的参画
  
- ・エリアマネジメントの実施に当たっては公園・沿道で収益をあげ、その収益の一部を還元することにより地域のポテンシャルの向上に努めます
  - a.プラットフォーム参加には一定の会費等を設定することが考えられますが、参加者が相互に協力する事により、まちづくり活動を進めるための財源（収益）を確保します
  - b.得られた収益の還元には、エリア全体のポテンシャルを向上させることを目的とし、収益性の高い地区も低い地区もバランスよくポテンシャルの向上に努めます
    - ⇒地域全体の価値を向上させることを重視し、特定の参加者だけに利益が行くことのないようにします
  
- ・プラットフォームの成熟度にあわせて、組織と取り組みを進化させます
  - a.組織が未熟な段階では美化活動やイベント等短期的に取り組める活動から開始し、長期的に公園、沿道が一体的に魅力的な地区となるよう取り組みを進化させます
  - b.段階が進むにつれ、プラットフォームの意向を汲んで機動的に事業を展開する組織が必要となるため、その準備を進めます

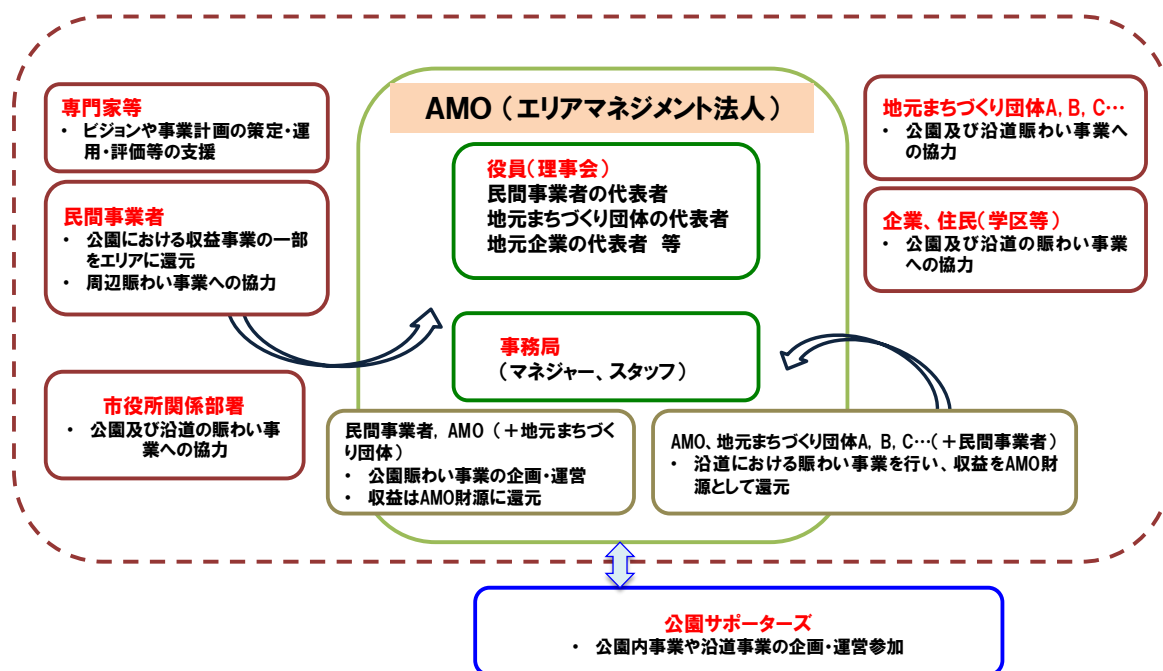
○エリアマネジメントのファーストステップ(民間事業者決定から整備期間中のイメージ)

- ・まずは、協議の場を設置し、エリアマネジメントの学習や検討から始めます
- ・公園と周辺地区が共に発展するビジョンを共有し、始められる活動から実践します
- ・整備前や整備中の実験的事業（オープンカフェ、美化、環境を意識したソーシャルイベントなど）を通じて、本格展開に向けての課題を明確化します
- ・財源はプラットフォーム会費や協賛金をベースに開始し、徐々に事業収益を増加させます



## ○エリアマネジメントの将来像の一案(公園整備終了後のイメージ)

- ・完成エリアマネジメントプラットフォームは、ビジョンの策定・評価・更新、事業計画の承認などにより、久屋大通地区の羅針盤としての役割を果たします
- ・AMO は、ビジョンに沿って事業計画を提案し、承認された事業計画を機動的に実施します



- ・ 段階的発展とフレキシビリティ (Short time action for Long time change)
  - まず、民間事業者、周辺まちづくり団体、市役所を中心としたエリアマネジメントのプラットフォームの設置から始め、その後の展開は、事業提案に求めます
  - 「短い期間のアクションの積み重ねで長期的な変革を生む」という「戦術的都市計画」(Tactical Urbanism) の考え方を重視し、段階的発展の具体的方策について提案を受けます
  - エリアマネジメント活動の定着を見ながら、将来的には、沿道建物の用途誘導方法が検討される方向を目指し、建物1階には、レストラン、物販、ギャラリーカフェなど賑わい創出を行う用途が集積すると共に、緑が公園と連続する景観を実現する動きを期待します